

地域中小企業の人材確保・定着支援事業 情報交換会開催

～大卒者採用の現状を産学官で意見交換～

7月19日、前橋市・前橋商工会議所会館において、地域中小企業の人材確保・定着支援事業情報交換会を開催。大学、組合、事業者、キャリアアカウンセラー、群馬労働局から関係者等24名が出席した。初めに、中央会から本事業の概要を説明した後、各大学の就職内定状況と今後の取組や中小企業の採用環境を巡る現状等について情報交換を行った。

大学の就職指導担当者からは、4年生の就職内定率や就職先の動向、志望傾向等に加え、夏以降の学生への支援方針等が紹介された。

組合や事業者からは、大学の新卒者を採用したいという意思はあるものの、求人募集に大学生が集まらない、内定を出しても大手に流れてしまつといった現状が報告された。

キャリアアカウンセラーからは、①今までの人生の中で失敗をしないできている学生が多く失敗を極端に恐れている、②自分の感情・考えを話すのが苦手、③言われたことはしつかりやるがそれ以外はやらない等、大学生の傾向が報告された。一方で、成功体験（その

過程の苦労や失敗）を積み重ね、きちんと話をしていくと能力を発揮できるという報告も行われた。群馬労働局からは、企業情報発信として行っている若者応援企業宣言事業、グリーンドーム前橋で行われた企業説明会、さらには、労働局長が講師となり大学等で労働法セミナーを実施している事例も紹介された。



海外展開等について意見交換

～ 群馬県金属プレス工業会総会・意見交換会開催 ～



総会

7月2日、中央会会議室において、群馬県金属プレス工業会の総会並びに情報交換会が行われた。

新貝隆一代表幹事の挨拶に続き、中央会木村創造常務理事が挨拶を行い、新貝代表幹事が議長に選任され、議案の審議が行われた。

左記の各議案は、いずれも全員異議なく可決承認・決定された。

- ・第1号議案 平成24年度事業報告並びに収支決算承認の件
- ・第2号議案 平成25年度事業計画並びに収支予算決定の件
- ・第3号議案 平成25年度会費の賦課及び徴収方法決定の件
- ・第4号議案 役員改選の件



代表幹事に就任した池田氏

尚、役員改選では、新たに池田光男氏（太田支部・株）池田製作所取締役会長）が新代表幹事に就任した。

情報交換会

総会終了後、中央会木村常務理事を座長に情報交換会が行われた。

初めに、木村常務理事より6月30日、東京都の自由民主党本部で安倍首相が出席して行われた「中小企業・小規模事業者政策緊急フォーラム」について報告し、設備投資減税等について説明を行った。

続いて、意見交換が行われた。各支部の事業内容について、安全衛生に関する講習会を他団体の会員とともに開催する企画、勉強会やレクリエーション大会の継続的な開催により親睦を深めている事例等が報告された。

また、海外展開について、中国進出の難しさ、東南アジアにおける進出企業の現状等に関して活発な議論が交わされた。

また、昨今の円安傾向の中でも国内に仕事に戻ってくることはなく、今後の見通しも厳しい状況が予想されるとの意見も出された。

さらに、緊急フォーラムで安倍首相が表明した、設備投資減税の具体的な内容について確認して欲しいとの要望も提出された。

東毛地区の食を巡る

～ 事務局長会県内視察研修会開催 ～



視察風景



木島理事長

7月18日、中小企業団体事務局
長会（川岸一義会長、会員43人）
では、東毛福祉事業（協）（大泉町）
並びに正田醤油（株）館林東工場
（館林市）において、恒例となつ
た県内視察研修を開催した。

当日は、東毛福祉事業（協）に
おいて、施設を見学。検品室、自
家発電装置、洗浄機、炊飯室、本
年3月に新設された廃水処理施設
盛り付けライン等を見学した。

「醤油と各種つゆ・たれが主力製品。醤油については、昨年は約80万ℓを出荷した」と述べることも、海外に向けても積極的な販売展開を図っている旨説明を行った。

その後、醤油麹の芳香漂工場内を見学した。



高橋取締役常務執行役員

次いで、同組合会議室において、木島健司理事長が、「現在では事業所向けの他に、社員食堂、学生食堂、学校給食、幼稚園給食等、1日約1万8000食を提供している。ISO9001、県内の弁当業界初となる群馬県食品自主衛生管理認証制度をそれぞれ認証取得し、食の安全を徹底している」旨説明を行った。

その後、正田醤油（株）館林東工場に場所を移し、同工場を見学した。

初めに、同社取締役・常務執行役員高橋静司氏が、「弊社は、創業140周年を迎える。当工場は、濃

ぐんまエコアクション21倶楽部

第7回通常総会・研修会等開催

ぐんまエコアクション21倶楽部は、7月19日、前橋市・前橋商工会議所会館において、第7回通常総会・研修会等を開催した。

通常総会

林会長が挨拶を行った後、議長に選任され、平成24年度事業報告並びに収支決算承認の件、平成25年度事業計画並びに収支予算決定の件、経費の賦課徴収方法決定の件が審議され、いずれも全員異議なく原案どおり可決承認・決定された。



林 会 長

続いて、来賓である群馬県地球温暖化対策室小笠原祐二室長、商工中金前橋支店中島潔支店長、群馬県中小企業団体中央会木村創造常務理事・事務局長、エコアクション21中央事務局森下研事務局長、11名のエコアクション21審査人を紹介した後、小笠原室長と中島支店長が来賓挨拶を行った。

研修会等

通常総会終了後、エコアクション21中央事務局森下研事務局長を講師に迎え、「エコアクション21の現状と方向性及び認証・登録事業者に期待すること」をテーマに研修会を開催した。

まず、環境経営のあり方等について、「環境活動と企業活動を両立させるには、その取組を通じて、本業部分の合理化・効率化・利益に結び付けることが必要。単に資源やエネルギーの消費量を減らし、廃棄物の排出を減らしているだけ



中島支店長



小笠原室長

では、それ自体が目的になってしまい、取組自体が頭打ちになる。その背景にある業務の改善や効率化を進めていくことで、環境経営を更に深めていくことができる」と解説した。

また、エコアクション21への取組を更に進めるポイントとして、①他社の取組や公表されている取組事例を参考に、②システムを改善する、③環境への取組の評価の際にできなかったことは、「何故できなかったか」を三段階遡る、④審査人にアドバイスを受ける、等の具体例を示した。

最後に、「高額商品であっても企業のブランド力があれば、顧客から選ばれる。環境経営を通して、是非とも自社のブランド力を高めて頂きたい」と締め括った。



森下事務局長

なお、研修会終了後には、個別相談会を開催し、エコアクション21審査人が応対した。

キャッシュフロー重視の経営を!!

～会計リスクに関する講習会を開催～



8月2日、伊勢崎市・職業支援センターいせさきにおいて、群馬県農業機械商業協同組合を対象に講習会を開催し、組合員企業の経営者や経理担当者等50名が講師の話に耳を傾けた。

当日は、税理士齋藤仁志氏が、「会社を取り巻く会計リスク」をテーマに、企業会計で使われる主な勘定科目に関するリスクについて、具体例を交えながら、詳細に解説を行った。

齋藤氏は、冒頭、リスクを知る上で、キャッシュフローに着目することが重要である旨指摘するとともに、経営者自身が「現金以外のお金」の存在を常に意識していることが、何よりもリスク回避につながる旨強調。

特に、会社で保有する売掛債権、棚卸資産、有価証券、固定資産、さらには買掛金や借入金について、



齋藤仁志氏

その内容やリスクを経営者が常に把握しておくことが不可欠であるとし、現金預金のみに着目することの危険性を指摘した。

また、講演の後半では、税務調査について説明が行われ、企業の会計税務に対する税務署の見方や税務調査のポイント等について詳細な解説を行った。

この中で、齋藤氏は、経営者が陥りやすいミスとして、売掛金を例に取り上げ、△日以降の売上内容の理解不足により「期ズレ」が発生するケースが多いことを指摘。

その他、期末における大量仕入れや消耗品の大量購入、架空の仕入・外注費・人件費、貸倒損失を回避するための回収努力の有無等の点について、税務署としても厳しく対処している旨説明を行った。

また、赤字会社に対する税務調査、国税査察制度等についても言及し、適正な会計処理と正確な税額計算が行われるよう、参加した経営者に促した。

なお、講習会終了後には、会場を移して恒例の購買品特別展示会が開催され、大勢の組合員企業の関係者が、農機部品等を買求めていた。